

伊庭内湖におけるホンモロコ稚魚の移動

三枝 仁・亀甲武志・若林裕子(滋賀県立大学)

1. 研究目的

近年伊庭内湖では、ホンモロコの漁獲が増加している。平成20年度の調査では、伊庭内湖内に多数の稚魚が生息していることが判った。そこで、本年度は伊庭内湖で生息する稚魚の移動について調査した。

2. 研究方法

平成21年4月24日から7月2日にかけて、伊庭内湖本湖および伊庭内湖からの出口にあたる大同川水門付近で小型ビームトロール網を用いてホンモロコ稚魚を採集した。採捕した稚魚は体型を測定し、単位曳網面積あたりの全長組成を求めて動向を調査した。

3. 研究結果

調査期間中に収集した稚魚は、伊庭内湖本湖で10,110個体、大同川水門付近で562個体、計10,672個体であった。単位面積あたりの採捕数は、伊庭内湖本湖では5月15日と6月9日にピークがあり、周期的に増減していた。大同川水門では、5月26日までは低い値が続いたが、6月17日にピークがあった(表1)。

表1. 小型ビームトロール網による採捕結果

調査日	伊庭内湖本湖				大同川水門			
	調査地点数	面積	採捕数	1mあたり採捕数	調査地点数	面積	採捕数	1mあたり採捕数
4月24日	16	1,405	935	0.67	2	159	0	0.00
4月30日	16	1,252	521	0.42	2	145	0	0.00
5月5日	17	1,267	880	0.69	2	130	12	0.09
5月15日	16	1,303	1,529	1.17	3	199	1	0.01
5月20日	17	1,319	1,140	0.86	4	236	5	0.02
5月26日	16	1,160	548	0.47	4	295	0	0.00
6月3日	16	1,381	1,151	0.83	-	-	-	-
6月9日	16	1,461	1,706	1.17	9	661	68	0.10
6月17日	16	1,638	927	0.57	2	135	187	1.39
6月25日	8	917	521	0.57	2	291	134	0.46
7月2日	7	1,041	252	0.24	2	841	155	0.18
計	161	14,145	10,110		32	3,091	562	

稚魚のサイズごとの傾向を見るため、単位面積あたり採捕数の調査日ごとの全長組成を求めると、伊庭内湖本湖では4月24日では全長9~14mmが主体となっており、以降次第に大きくなる傾向が見られたが、6月17日では

大型のものが減少し、その後は顕著なモードはなかった。一方、大同川水門では、5月26日までは採捕個体が少なく、5月中は全長10~20mmの個体が僅かに出現する程度であったが、6月17日に全長20~50mmの大型個体の値が高くなっていった(図1)。この結果から、伊庭内湖でふ化したホンモロコが6月中旬に全長20~50mmに成長し、外湖へ移動しているものと考えられた。

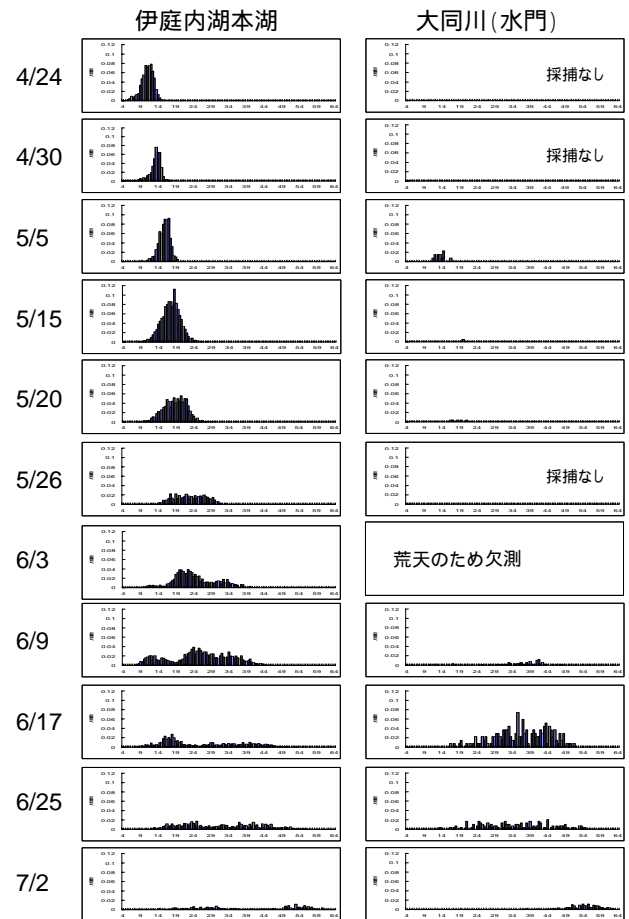


図1. 調査日ごとの全長組成

4. 研究成果

栽培漁業における放流サイズの検討に寄与すると期待できる。